Save the Children

子どもたちにとっての戦争

パレスチナ・ガザ地区：2年が経過して

アフマドさん*（19ヶ月）。ガザ地区のデル・アル=バラフにあるセーブ・ザ・チルドレンの診療所で栄養不良の治療を受けています。

この報告書は、2025年9月30日時点の情報をもとに作成されたものです。

はじめに

私たちには、恒久的な停戦が必要です。

メルヴァット・クァーダ・ハジャージ
セーブ・ザ・チルドレン
ガザ地区
保健・栄養アドバイザー

この2年間、ガザ地区で人道支援に従事する者として生活し働くことは、個人的に辛く職業的にも残酷なものでした。私は、セーブ・ザ・チルドレンの診療所などを訪れる子どもや家族が、空腹で、負傷し、こころに深い傷を負っており、戦争の傷跡が目や身体、魂に刻まれているのを目にしてきました。

この戦争で私は家と5人の子どもを持つ兄を失いました。彼はイスラエル軍の空爆により、緊急医療が届かず失血死しました。それ以来、私は甥や姪にとって父であり母であり、友人であり保護者となりました。

私たちは85歳の母と共に暮らしています。母は糖尿病と高血圧を患っており、これまで5回も避難を余儀なくされ、清潔な水、食料、医療へのアクセスが限られた過酷な環境でテント生活をしています。家族全体で100kg以上の体重を失いました。毎日、深いこころの傷や困難な状況に立ち向かう家族の強さを目の当たりにしながら、命を守る保健・栄養サービスを提供し、ガザ地区のもっとも脆弱な状況にある人々に希望と癒しを届けています。これを続けるには、拡大するニーズに見合った規模での迅速な支援が必要です。

“困難にもかかわらず、私は同僚とともにコミュニティへの支援に全力を尽くしています。”

— メルヴァット*
（セーブ・ザ・チルドレン 保健・栄養アドバイザー）

サマーさん* がセーブ・ザ・チルドレンのスタッフから赤ちゃん用キットを受け取っている様子

この地域で 210万人以上 の人々を 支援しました

ナゼクさん*（30歳）は娘のヌールさん*を抱きながら、セーブ・ザ・チルドレンの栄養クリニックで治療を待っています。

2年にわたる戦争の末、ガザ地区の子どもたちは極めて深刻な状況に置かれています。

イスラエル軍によって、2万人以上のパレスチナ人の子どもが命を奪われ、少なくとも3万9千人が負傷しています。

家族は何度も避難を余儀なくされ、安全な場所はどこにもありません。
その一方で、イスラエル当局はガザ地区への支援物資の搬入を引き続き制限しており、食料や医薬品が必要な家族のもとに届かない状況が続いています。ガザ地区では国連の「総合的食料安全保障レベル分類（IPC）」によって公式に飢饉が確認されており、子どもたちは栄養不良やその他の予防可能な原因で命を落としています。

私たちは、引き続き恒久的な停戦による戦争の終結と、より多くの命を守る支援が人々に届くよう、人道的アクセスの拡大を求めています。

ガザ地区の人道危機の中、現地スタッフとパートナー団体は、支援を必要とする家族に対して、清潔な水と衛生環境、食料、現金、生活必需品に加え、保健・栄養、子どもの保護、教育、そして精神保健・心理社会的支援を届けるため、懸命に支援活動を続けています。

また、周辺地域も含め、エジプトや、ヨルダン川西岸地区で激化する暴力やレバノンでの紛争の影響を受けた人々への支援を継続しています。

地域全体での支援実績（過去2年間）：
•ガザ地区：166万308人
•ヨルダン川西岸地区：11万8,510人
•エジプトにいるパレスチナ人：1万1,149人
•レバノンで暴力に直面している人々：31万1,069人

このような多方面での成果は、パートナー団体、支援者の皆さまのご支援・ご協力があってこそ成し遂げられました。ご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

ガザ地区：
約166万人を支援
（うち81万1,995人が子ども）

教育

1万1,487人の子どもを支援

一時的な学習スペースを26ヶ所設置し、5,000人の子どもたちに安心・安全に学べる場所を提供するとともに、教員への研修を実施しました。

現金・食料支援

40万1,000人

革新的な電子ウォレットを通じた支援も含め、29万970人に現金を提供しました。私たちはガザ地区における最大規模の現金支援団体のひとつであり続けています。

生計支援プログラムを実施し、農家の食料生産の回復を支援するとともに、若手起業家への投資も行いました。

水・衛生支援

91万7,000人
（うち42万3,000人が子ども）

57万5,441人に給水車を通じて清潔な水を提供しました。

1万8,079人に衛生キットやテント、その他の避難用物資を配布しました。

子どもの保護、精神保健・心理社会的支援

8万9,737人
（うち7万3,737人が子ども）

8ヶ所の「こどもひろば」を設置し、さらに20ヶ所をパートナー団体とともに支援しました。
障害のある子どもへの個別支援を実施しました。
ケースマネジメントを通した支援で、640件の子どもの保護ケースに対応しました。

保健・栄養

23万8,791人
（うち12万56人が子ども）

２つの診療所で１１万3,643人に一次医療を提供しました。
1万3,573人の栄養不良を治療しました。
2,957人の子どもにポリオ予防接種を実施しました。（国連主導のポリオキャンペーンを通して）

“セーブ・ザ・チルドレンのセッションを受けた後は、まるで昼と夜ほどの違いを感じます。”

— ワファーさん*（45歳）。 精神保健・心理社会的支援のセッションに参加後の感想

ヨルダン川西岸地区：

11万8,510人を支援

（うち6万1,583人が子ども）

食料、水、衛生キットに加えて、3万4,755人に現金支援を提供しました。

「こどもひろば」を通じて2万8,000人の子どもたちを支援し、個別のケースマネジメント支援も行いました。

地域に根ざした団体による子ども向けの教育活動の実施を支援しました。

現地パートナー団体の紹介

セーブ・ザ・チルドレンのパレスチナでの支援は、25の現地パートナー団体（うち12団体はガザ地区）によって主導されています。

私たちは支援活動を通じて、燃料不足、支援物資搬入の妨害、そして国際的な援助資金削減といった課題を乗り越えるために、現地のパートナーを支援し続けてきました。それにより、最も支援を必要としている家族への支援を継続することが可能となっています。

一部のパートナー団体の紹介：

ATFALUNA SOCIETY

今年前半の大幅な援助資金削減により、深刻な打撃を受けていたため、セーブ・ザ・チルドレンは、障害のある子どもたちへの支援を継続できるよう、職員の給与や補助具の修理費をまかなう資金を提供しました。

MA'AN DEVELOPMENT CENTRE

燃料不足が続き、支援物資の提供に大きな影響が出ていたため、セーブ・ザ・チルドレンは彼らのガザ地区事務所に対し、太陽光発電の導入やITシステムの強化を支援し、防寒着などの必需品を届ける活動の継続を可能にしました。

TAMER INSTITUTEFORCOMMUNITY EDUCATION

私たちは協働し、子どもたちのためにハイブリッド型の学習モデルを導入しました。これには、地域のボランティアを通じて学習キットや本を提供することが含まれており、教室の外でも子どもたちが学び続けられるよう支援するとともに、彼らの心身の健康もサポートしています。

パートナー団体の皆さまに心から感謝申し上げます。

安全のため、全てのパートナー団体でなく一部をご紹介しています

パートナー団体のスタッフであるパリスさん*は、デル・アル=バラフの避難民キャンプに住む家族に食料パッケージを届けています。

エジプトとレバノンでの支援活動

エジプトでの支援：

過去2年間にわたり、エジプトのチームおよびパートナー団体は、ラファ検問所からガザ地区へ物資を搬入できる状況状況下においては、食料、水、医療物資をトラックに積みこむ作業において重要な役割を果たしてきました。

また、ガザ地区からの医療避難者や避難を余儀なくされた家族を含め、エジプトにいる1万1,149人のパレスチナ人に支援を届けました。

支援内容：

- **1,000人に医療ケアを提供**
- **83万米ドル相当の医療物資をエジプトの病院に提供**
- **「こどもひろば」を運営し700人以上の子どもが参加**
- **1,600人以上に精神保健・心理社会的支援を提供**
- **7,900人以上に現金支援を実施**

レバノンでの支援：

2024年9月に紛争が激化して以来、1年間で数万人の家族が避難を余儀なくされ、子どもたちの学びが中断されています。

過去1年間、レバノン国内で、31万1,000人以上（うち13万1,000人が子ども）に支援を届けました。

支援内容：

- **水・衛生施設を通じて15万4,000人を支援**
- **7万7,000人に食料・現金・生計支援を実施**
- **2万9,000人に安全な避難所と生活必需品を提供**
- **2万6,500人に栄養支援を提供**
- **1万7,500人の子どもに教育支援を実施**
- **2,800人の子どもに保護、精神保健・心理社会的支援を実施**

今後の計画

今後を見据えると、パレスチナの家族にとって未来は不透明です。それでも私たちは、戦争に巻き込まれた子どもと家族を支援し続けるという決意を貫きます。

私たちは、グローバルなアドボカシー活動とキャンペーンを通じて、即時かつ恒久的な停戦の実現、そしてイスラエル政府による封鎖の解除と人道支援のアクセス確保を引き続き求めています。

今後数ヶ月から1年にかけて、私たちはスタッフと現地パートナー団体の安全を最優先しながら、命を守るプログラムの提供を継続していきます。
これには以下の内容が含まれます：

ガザ地区における保健・栄養、水・衛生、現金支援の拡大

2つの一次医療クリニックと8つの母子支援エリアの継続運営

ガザ地区の「こどもひろば」とヨルダン川西岸地区の移動式チームによる子どもの保護、教育支援の拡充

ヨルダン川西岸地区で拘束された子どもたちへの心身の回復と社会復帰支援

ガーダさん*（13歳）。ガザ地区のセーブ・ザ・チルドレンが運営する「こどもひろば」にて

“（セーブ・ザ・チルドレンの）
スタッフは、本当に
私と娘のことを
気にかけてくれました。”

— ラドワさん*
最年少の娘バスマさん*が栄養不良の治療を
受けた後の言葉

皆さまのご支援に
心より感謝いたします

どのような厳しい状況が続いても、私たちの支援活動に終わりはありません。

支援活動における制約への対応、食料や医薬品の不足、大規模な避難など、数々の困難を乗り越えながら、セーブ・ザ・チルドレンと現地パートナー団体は、ガザ地区およびその周辺地域で子どもたちやその家族に支援を届けています。
皆さまお一人おひとりのあたたかい想いは、着実に一人ひとりの子どもたちの今と未来につながっています。

セーブ・ザ・チルドレンは今後も、日本そして世界で厳しい状況に置かれている子どもたちに、皆さまの想いが確実に届くように活動を続けてまいります。
私たちの活動に関心をお寄せくださるすべての皆さまに、心より感謝いたします。

Save the Children

セーブ・ザ・チルドレン
2025年10月発行

最新の活動状況はセーブ・ザ・チルドレンの
ウェブサイトよりご覧いただけます。

この報告書は、2025年9月30日時点の情報をもとに作成されたものです。
*プライバシー保護のため、名前は変更されています